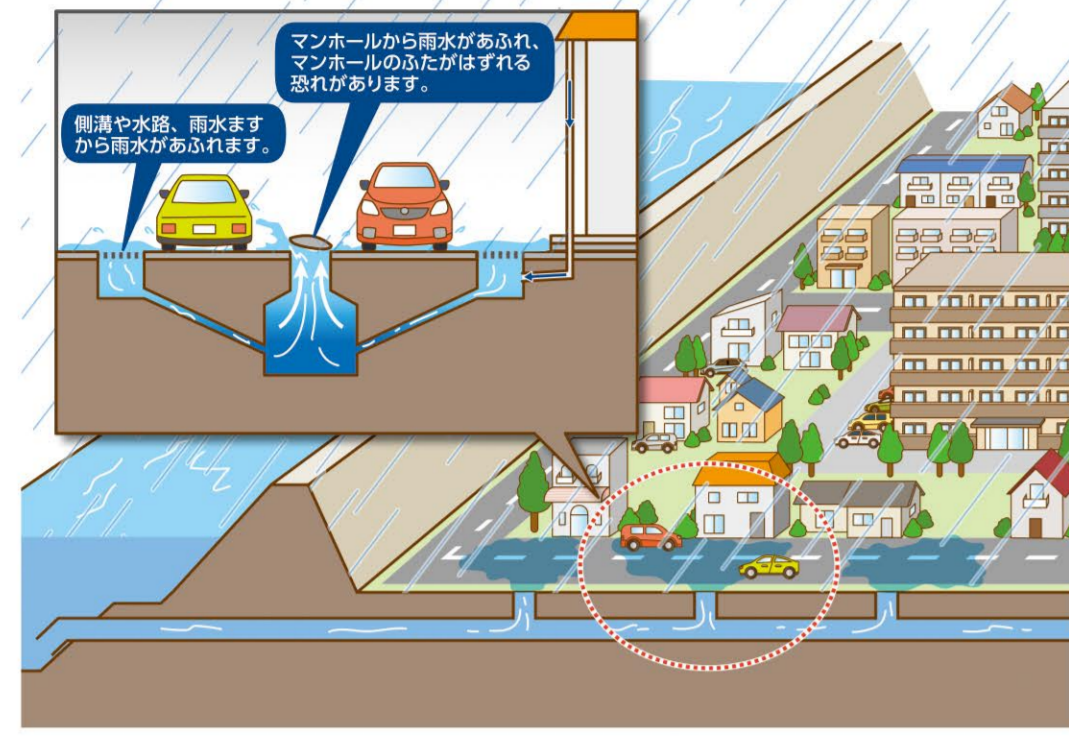


青葉区内水ハザードマップ

内水浸水想定区域(想定最大規模)

この内水ハザードマップは、下水道の能力を超える大雨に対して、浸水が想定される区域の皆さんに日頃からの備えや対策をとっていただくために作成したものです。
 ※河川周辺の浸水想定については、必ず洪水ハザードマップも併せてご覧ください。



内水浸水想定区域(想定最大規模)はどうやって決めたの？

この内水浸水想定区域は、想定最大規模の降雨によって、下水道や水路、道路側溝などから水があふれる範囲や深さをシミュレーションしたものです。想定最大規模降雨とは、各地方において過去に観測された最大の降雨量を基本に設定することになっており横浜市では、1999年に関東地方で観測された時間降雨量**153mm**としています。

なお、この内水浸水想定区域図は河川の堤防を越えて水があふれることも考慮してシミュレーションしていますが、堤防の決壊は想定していないため、洪水浸水想定区域と浸水深や浸水範囲が異なる場合があります。
必ず洪水ハザードマップも併せてご覧ください。

出典データ	
背景図	横浜市地形図複製承認番号 令3建都計第 9024号 横浜市建築局都市計画基本図データ(地図レベル2500)により作成
内水浸水想定区域	下水道河川局 青葉区内水浸水想定区域(令和3年4月)
土砂災害警戒区域	横浜市建築局 土砂災害警戒区域(令和7年7月現在)
土砂災害特別警戒区域	横浜市建築局 土砂災害特別警戒区域(令和7年7月現在)

※内水氾濫の浸水想定区域図は、平成30年度末の河川や下水道施設等の整備状況および地盤の高さを反映して、横浜市下水道河川局下水道計画課が作成したものです。
 雨の降り方によっては、浸水区域や浸水深がこの区域と異なることがあります。

凡例 (Explanatory Notes)

◎浸水深のめやす



※洪水ハザードマップ・高潮ハザードマップの浸水深とは、浸水階級が異なります。

◎避難する際に注意する箇所

	アンダーパス	大雨時に雨水が急激に集中し、浸水して安全通行に支障をきたすおそれがある箇所(進入すると危険なため、冠水時は通行は控えてください。)
	土砂災害警戒区域	急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生ずるおそれがあると思われる区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。
	土砂災害特別警戒区域	急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると思われる区域で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。

	都県界		高速道路・有料道路
	市区界		主要道路
	町丁目界		避難場所
	JR線・駅		雨量観測所
	私鉄線・駅		水位観測所
	市営地下鉄線・駅		河川監視カメラ
	河川、遊水池		



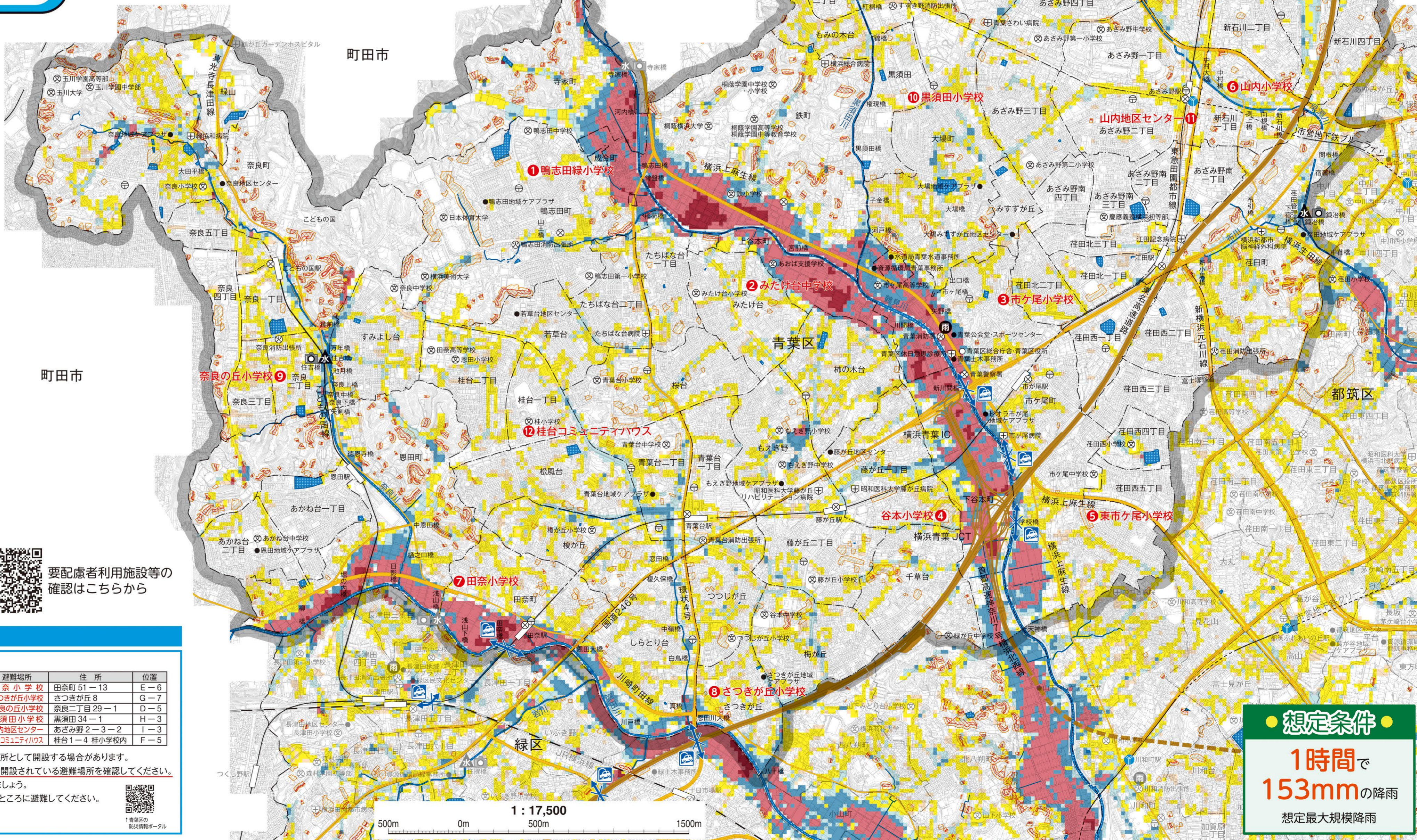
要配慮者利用施設等の確認はこちらから

風水害時における避難場所について

◆風水害時において、12か所を候補として避難場所を開設します。

条件等	No.	避難場所	住所	位置	No.	避難場所	住所	位置
風水害時に開設される避難場所(候補)	1	鴨志田緑小学校	鴨志田町 532	F-4	2	田奈小学校	田奈町 51-13	E-6
	2	みたけ台中学校	みたけ台 30	G-4	3	さつきが丘小学校	さつきが丘 8	G-7
	3	市ヶ尾小学校	市ヶ尾町 1632-1	H-4	4	奈良の丘小学校	奈良二丁目 29-1	D-5
	4	谷本小学校	藤が丘 1-55-10	H-6	5	黒須田小学校	黒須田 34-1	H-3
	5	東市ヶ尾小学校	市ヶ尾町 519	I-6	6	山内地区センター	あさみ野 2-3-2	I-3
	6	山内小学校	新石川 1-20-1	I-3	7	桂台コミュニティハウス	桂台 1-4 桂小学校内	F-5

◆災害の規模や状況に応じ、上記以外の指定緊急避難場所(注1)や公共施設、自治会館等も避難場所として開設する場合があります。
 ◆すべての避難場所を開設するわけではありませんので、避難の際は、市・区のホームページ等で開設されている避難場所を確認してください。
 ◆2か所以上の避難場所へ避難できるよう、自分自身であらかじめ複数の避難経路を確認しておきましょう。
 すでに浸水が始まっている場合などには無理に避難場所へ移動せず、浸水していない近くの高いところへ避難してください。
 (注1) 指定緊急避難場所: 切迫した災害の危険から逃れるための一時的な避難場所です。
 横浜市ではすべての地域防災拠点を設定しています。



想定条件
1時間で
153mmの降雨
 想定最大規模降雨

